入学前に復習

大学「中高レベル」指導に力

学力不足の新入生を対象に、入学前に中高生レベルの学力をつけさせる「リメディアル（再履修）教育」をする大学が増えている。今月初め、京都市内で開かれた「日本リメディアル教育学会」から、取り組みの実態と課題を報告する。

同学会が発足したのは昨年春。学力不足の学生を抱える大学で実践例を持ち寄り、効果的なカリキュラムを作るのが目的だ。京都の学会には約150の大学から約300人が参加した。

「『3x−x=3』と答えた学生がいた」「『奈良時代』も知らない」――大学関係者から実態が紹介されて会場には失笑が広がったが、「どこも人ごとではないはず」（私立大学関係者）という。こうした実態への対応策として注目を集めるのが、入学式までに中高生レベルの基礎学習を固める「入学前教育」だ。

立命館大学（京都）は4年前に開始。インターネットと通信添削を併用、毎日1時間勉強できる程度の分量を課す。今年は1月から3月にかけ、AO入試▣と推薦入試の入学予定者の4分の3にあたる約1900人が希望して受講した。

▣ AO入試　書類審査や面接、集団討論などで、意欲や個性も含め、受験生を総合的に評価する制度。AOはアドミッション・オフィス（入試事務局）の略。

近畿大学や広島国際大学もネット活用派。近畿大学の受講者も、推薦入試による合格者約1300人にのぼる。聖学院大学（埼玉）は、春休みで教室が空く2、3月に入学予定者を11日間通わせる。90分の授業を1日に4コマ受講させるほか、教員との面談時間も設けて「脱落」防止に力を入れる。

教科は英語や数学が中心だが、「日本語表現」を最重点に挙げる大学も多い。「論文が書けない学生が多い」（近畿大学）ためだ。

こうした取り組みの背景には、入試制度の多様化がある。得意教科への取り組みや意欲が認められてAO入試や推薦入試を通った学生の中には、それ以外の教科が中学レベルでとどまっている学生もいる。そのままでは、一般入試で入った学生と一緒に講義を受けても、理解度に大きな差がでてしまい、留年や退学に追い込まれる例もある。

だが、「入試の多様化で多様な学生が入学し、キャンパスが活性化する」（立命館大学）という利点をあげる大学も。少子化による「全入時代」も目前に迫り、大学によっては、学生の低学力にもある程度目をつぶらざるを得ない現実もある。

今のところ、「リメディアル教育で、学力が向上したというような検証は難しい」（広島国際大）のが現状だが、こうした取り組みが不可欠という認識は定着しつつある。

学会会長の小野博・独立行政法人メディア教育開発センター教授は「再履修は大学の使命だが、大学だけで解決できるものではない。小中高との連携も含め、論議を深めなければならない」と話している。

（松本美奈）

次にあげた部首を含む漢字を選びなさい。
①おおざと→（a.除 b.狸 c.部 d.殿）
②りっとう→（a.判 b.靖 c.即 d.新）
③れんが→（a.志 b.盗 c.瓶 d.然）
④おおがい→（a.財 b.類 c.罪 d.戒）
⑤ふるとり→（a.酔 b.鳩 c.集 d.振）
⑥けものへん→（a.逐 b.豹 c.獣 d.狭）
⑦えんにょう→（a.迎 b.建 c.超 d.魅）
（立命館大が入学前教育で使った日本語養成講座より）※答えは下に

答え　①c②a③d④b⑤c⑥d⑦b